

日本とラテンアメリカの絆：35年の歩みを振り返って

日時：2025年6月13日より毎週金曜日（全4回）18:00～19:30
会場：京都外国語大学1号館7階小ホール/9号館7階インターナショナルホール
後援：京都ラテンアメリカ文化協会
※申込不要・入場無料

日本とラテンアメリカは、人的交流を通じて密接な関係を築いてきました。主なトピックには、移住、ビジネス、ラテン音楽の人気、日系人の日本への還流があります。本講座では、1990年の入管法改正以降の日本とラテンアメリカの関係に焦点を当て、日系人の動向や関連問題、日本とラテン音楽との関係、将来の展望について、多様な専門家を招いて、刺激的なシリーズ講座を提供します。

第1回 6月13日（金）

会場：1号館7階小ホール

「日系人の来日と日本社会の変化」

伊藤秋仁（京都外国語大学 ラテンアメリカ研究センター長／ブラジルポルトガル語学科教授）

1990年に入管法が改正され、多くの日系人が来日し、居住するようになりました。日本社会は外国人移民を受け入れないという建前の中で「日系人」を受け入れましたが、彼らの多くはラテンアメリカにルーツを持つ外国人にほかなりません。この35年の来し方を解説します。

第2回 6月20日（金）

会場：1号館7階小ホール

「日本で暮らすブラジルルーツの若者たち：伴走と対話の現場から見えてくること」

北川ペドロソ実萌（特定非営利活動法人 immi lab（イミラボ）代表理事）

移民ルーツの若者のレジリエンス育成事業「プロジェクトポンテ」。進路の幅を広げ、日本社会との対話機会を作り、滋賀県を中心に活動しています。本講演では、現場から見える課題と可能性、移民と共に成長する関係性やその未来について話します。

第3回 6月27日（金）

会場：9号館7階インターナショナルホール

「音楽は世界をつなぐ」（レクチャーと演奏）

フローレスデュオ（フレディ・フローレス、ヘスス・フローレス）

日本にやって来て30年あまり、ペルーの音楽を中心に、ラテン音楽、民族音楽（フォルクローレ）日本での人の交わりのなかから生まれたオリジナル曲も演奏してきました。そのなかで確信した、国や言葉は違っても人の心の奥底に流れる大切なものについて伝えたいと思います。

第4回 7月4日（金）

会場：1号館7階小ホール

「わたしも（あなたも）あそこにしたかもしれない～日系移民のコミュニティを巡りながら考えたこと」

神里雄大（劇作家、舞台演出家）

わたしはペルーの首都で生まれ、生後半年で日本にやってきた。物心がついたときには神奈川県に住んでいた。32歳のとき20年ぶりにペルーに行き、「オキナワまつり」を見たとき、自分もあのステージに上がっていたかも、と思った。そんな可能性の話をしたと思う。

●お問い合わせ●

京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター
〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6
TEL: 075-925-6853 E-mail: ielak@kufs.ac.jp
<https://www.kufs.ac.jp/ielak/index.html>